

とよつだより

第 2 5 号
 平成24年3月1日発行
 一編集・発行一
 豊津地区まちづくり委員会
 (広報記録専門部)

元気アップ！ 新春かるた大会

今年で七回目を迎える「豊津かるた大会」ですが、今年も例年と違った意味合いがあったのではないのでしょうか。

昨年三月十一日の東日本大震災から間もなく一年がたとうとしています。液状化によってでこぼこになった道路、地震で傾いた塀、まだ修理の終わらない瓦屋根など、地震の傷跡はまだまだ残っています。

豊津地区は、市内でも比較的被害の少なかった地域ではありますが、それでも被災による沈滞感が漂っていました。

こうした中で行われたかるた大会は、少なからず住民の元気アップにつながったのではないのでしょうか。

かるた大会には、未就学児からシニアまでの幅広い層から参加があり、賑やかに競技が行われ、かるたの後には、雑煮、あんころもち、きな粉もちが振る舞われました。

地区住民が集まって楽しく過ごしたこの一日が、参加者の心身を元気にし、復興への意気込みが増したと感じました。

各部門の成績

☆未就学児の部

- 優勝 君和田 茉歩 ちゃん
- 二位 原口 明音 ちゃん
- 三位 宮崎 湧 ちゃん

☆小学校一・二年の部

- 優勝 大川 侑也 君
- 二位 山本 柚希 さん
- 三位 君和田 莉央 さん

☆小学校三・四年の部

- 優勝 高橋 里梨子 さん
- 二位 藤城 歩夢 君
- 三位 君和田 潤貴 君



優勝者のひとこと

☆小学校五・六年の部

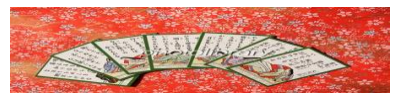
- 優勝 青山 昂正 君
- 二位 君和田 睦 さん
- 三位 郡司 遥佳 さん

☆一般の部

- 優勝 君和田 勁 さん
- 二位 青山 和子 さん
- 三位 君和田 元浩 さん

☆シニアの部

- 優勝 君和田 美智子さん
- 二位 石上 千代 さん
- 三位 斉藤 幸子 さん



茉歩ちゃん



「さんかできてよかったです」

里梨子さん



「参加できて、うれしかった」

侑也君



「うれしかったです」

昂正君



「去年はインフルエンザで参加できなかったのですが、今年は良かったです」

勁さん



「去年は参加できなかったのですが、勝ててうれしいです」

美智子さん



「うれしいです。来年もがんばります」

避難訓練を実施

一月三十一日、災害への心構えを育むことを目的に、豊津小学校と地域との合同避難訓練を行いました。

(参加者：豊津小児童・先生、及び地域住民四十一人)

当日、十時二十五分、「体育館へ避難してください」という校内放送から訓練が開始。まず、小学生が体育館へ避難。その後、学年ごとに決められた役割をこなし、召集係の六年生や先生方が、校庭に集まった地域の方々を既にマットを敷いた体育館へ地区ごとに誘導しました。

校長先生から、「豊津地区は、これまで何度も水害に見舞われた地域。災害はいつ起きるかわからないので、心構えは必要です」と、東日本大震災を経験して、学校も防災教育を重視している話がありました。

その後、講師としてお招きした鹿嶋消防署員から、昨年三月十一日の震災時の体験の話や、巨大津波に襲われた岩手県釜石市で約三千人の小・中学生が無事に難を逃れた『釜石の奇跡』の話があり、心構えや訓練、そしてその実践がいかに重要か、参加者は再確認をしました。

また、豊津地区は高い場所がないため、水害の際は、鹿島まちづくりセンターなど、台地部の公共施設が避難所になるとの説明もありました。

講話の後で行われた質疑応答では、避難する際は、軽トラック等での乗り合いも有効だとか、災害の種類によって対応は異なるが、まずは落ち着いて行動することが大事などとも教わりました。

最後は、「災害時は『焦らず、慌てず、諦めず』で乗り切ること事が大事」との飯島委員長の話で、今回の訓練を終えました。



この貴重な避難訓練、今回限りで終わらせることなく、二回目・三回目と続けていくことが重要である、と学校と考えが一致しましたので、次回以降の開催時期や内容などについて、今後、学校と協議を進めていきます。その時には、多くの方の参加をお待ちしております。

※この訓練のことは、茨城新聞(二月四日付)に掲載されました。

とよつまつり

平成23年11月6日(日)



よさこいソーラン



作品展示

天候にはあまり恵まれませんでしたが、今年度も皆様のご協力により、盛大にとよつまつりを開催しました。



模擬店



明るい農村



提灯



秋の深まりを感じる十一月二十六日、小学生十一名、大人十七名で高萩市の土岳・花貫溪谷に行ってきました。土岳は小滝沢登り口から出発して山頂を目指します。途中、斜面が急で木の根や岩が多く滑りやすい場所もあるので、安全面から小学生に大人が補助で付く班と大人の班に分かれて登りました。歌を口ずさみながら登る元気な子どもたちに励まされながら無事到着。山頂からは阿武隈山地の山々が三百六十度広がり、素晴らし景色でした。

豊津ハイキング

土岳・花貫溪谷

それから樺平キャンプ場で昼食を食べ、中戸川林道を歩いて下山。雲一つない青空といくらかの紅葉を残した山々、森林浴をしながらの約七キロのハイキングで、心も体もリフレッシュした一日でした。



※人形送りについては、茨城新聞(二月一日付)に掲載されました。



今回で三回目の『男の料理視察研修ツアー』は、「あんこう鍋を食べに行こう!」と決まりました。東日本大震災以来、北茨城市平潟漁港への客足が少なくなり、あんこう鍋を食べに来る客が激減したという記事が茨城新聞に掲載されていました。そのようなことから、同じ県民として何とか協力できないか、一助になればないか、という気持ちから行き先を決定しました。十一月二十一日の当日は天気にも恵まれ、現地を訪れて震災の傷跡を見ました。ガレキはほとんど片付けられていましたが、建物のブロツクだけが残っている悲惨な状態を目の当たりにし、震災の傷の大きさを実感しました。

その後は、気分を変えて本来の目的であるあんこう鍋へ。穏やかな太平洋を眺めながら美味しくいただき、平潟魚港を後にしました。

とよつかるためぐり (特別編)

一月二十八日、「とよつかるた」に詠まれる場所を巡る『新春ウォーキング』を行いました。(参加者二十三人)

一の鳥居から出発した参加者は、大船津大塚辺田近くにまちづくりセンターで作った大助人形五体を立て、家内安全や悪魔払いを祈りました。これは「人形送り」と呼ばれ、害虫や悪疫の災厄を除くため、わらなどで作った素朴な人形に身体にいたけがれなどを託し、むら境に立てたり、川などに流したりする風習です。昔は多くの地区で行われ、爪木地区でも行われていたようですが、近年は少なくなっているようです。

◆広報委員のつばやき◆

今年、かるた大会の後に繭玉飾りを実施。初めて体験する子どもたちがほとんどでしたが、上新粉で作った紅白の繭玉を用意した枝に付け、きれいな餅花ができました。五穀豊穰を祈願するこの餅花。豊津地区に多くの実りを与えてくれるでしょう。そう願いながら、ついお餅を食べ過ぎ。身体への実りは、もう十分なのですが…